

整理番号	47-6	事務事業名	スポーツ少年団補助事業	作成部署	生涯学習部体育課	電話	内線890	
事務区分	自治事務	法定受託事務	部長職名	山内平一郎	課長職名	松尾定治	作成日	平成17年6月
事務事業開始年度	S50年代	根拠法令等	北広島市教育関係団体補助金等交付規則					
〃 終了予定年度								
事務事業開始のきっかけ(導入当初の目的等)	各スポーツ少年団体を統括するスポーツ少年団本部が設置されたのを機に、各種スポーツ大会や講習会等によるスポーツの普及を通じて、健全な青少年を育成することを目的につくられた。							

## 1 計画(プラン)

上位施策との関連(総合計画での位置付け)	章	豊かな心と個性ある文化をはぐむまち	(第4章)
	節	スポーツとレクリエーション	(第5節)
	施策	生涯スポーツ・レクリエーション活動の振興	(第1施策)
目的(ここから成果指標を導きます)	対象(誰、又は何を)	スポーツ少年団(加盟27団体・933名)	
	意図(何をねらっているのか、対象をどのような状態にしたいのか)	スポーツ少年団の運営費及び事業費に対して補助し、組織の強化と自主的な活動を実施することで、青少年の健全育成を図る。	
手段(ここから活動指標を導きます)	市が行った(行う)事務事業の具体的な実施内容(団体補助等の場合はその補助金による団体の活動内容を記載)	16年度まで	スポーツ少年団の活動 1. 主催事業(駅伝大会・雪中トライアスロン大会・指導者研修会) 2. 管内スポーツ少年団関連事業(リーダー研修会・少年団交流会・指導員養成講習会) 3. 加盟各団体による競技会等
		17年度	同上

## 2 実施(ドウ)

## 【事業費の推移】

(単位:千円)

区 分		15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	18年度(予定)
直接事業費	国支出金				
	道支出金				
	地方債				
	その他特財				
	一般財源	480	480	440	440
	合計	480	480	440	440
人件費(概算)	人数(年間)	0.01	0.01	0.01	0.01
	1人当り年間平均人件費	9,000	9,000	9,000	9,000
	= ×	90	90	90	90
総事業費 +		570	570	530	530

## 【事務事業を評価する指標(ものさし)】

指 標	指 標(算式)	指 標 値			
		15年度	16年度	17年度(目標)	18年度(目標)
活動指標 (事務事業の活動量や実績)	加盟団体数	26団体	27団体	27団体	27団体
	加盟団員数	916人	933人	950人	950人
	本部主催事業開催数	2(駅伝が台風により中止)	3	3	3
	事業参加者数	276人	344人	350人	350人
成果指標 (目的の達成度を測るものさし)	加盟団体数	26団体	27団体	27団体	27団体
	加盟団員数	916人	933人	950人	950人
効率指標 (主要活動単位当たりコスト)	団員1人当たり費用 (総事業費/団員数)	622円	610円	557円	557円

### 3 評価(チェック)と改善(アクション)

事務事業を取り巻く社会環境の変化や今後の予測・他市町村の動向等	少子化に伴う児童数の減少、犯罪の低年齢化、価値観の多様化等、児童を取り巻く社会環境が大きく変化する中、スポーツ少年団をはじめとする社会教育団体への期待が高まりつつある。
---------------------------------	--

#### 【妥当性の評価と改善の方法等】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
行政関与の妥当性 【市が実施すべき事務事業ですか。市民・企業等での実施可能性はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	スポーツ少年団の活動は、これまで行政が実施していた事業が含まれており、青少年健全育成の一翼を担うスポーツ少年団との連携は妥当と考える。	
目的の妥当性 【社会経済情勢や市民ニーズの変化などから、設定した対象や意図は妥当ですか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	青少年の健全育成を継続していく上で、スポーツ少年団への補助は、妥当と考える。	
手段の妥当性 【現在の手段は適切ですか。もっと効率的で有効な手法はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	加盟団員数900名を数えるスポーツ少年団の自主的活動を継続していくには、妥当であると考えます。	
受益者負担の妥当性 【受益者負担の適正化の余地はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)  該当しない		

#### 【有効性と効率性の評価と改善の方法】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
有効性の評価 【意図した成果は上がっていますか】	十分成果が上がっている 概ね成果が上がっている あまり成果が上がっていない 成果が上がっていない	少子化による児童数の減少の中、900名を越える団員数を維持しているとともに、事業内容も計画的に実施しているため、十分成果は上がっている。	
効率性の評価 【手法は効率的ですか。コスト削減の方法はありませんか】	十分効率的 概ね効率的 やや非効率 かなり非効率	スポーツ少年団の活動は、これまで行政が実施していた事業が含まれており、スポーツ少年団との連携による青少年の健全育成は十分効果的である。	

#### 【事務事業担当部局内優先度】

部局で所管するすべての事務事業の中で、この事務事業の位置づけはどの程度ですか

A      B      C

### 4 総合判定と今後の方向性

【1次評価】	判定	今後の方向性や改善方法など
事務事業担当部局の総合判定 【上記3の評価と改善を踏まえ、今後の方向性についての総合判定と改善方法を記入】	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	青少年の健全育成のため、スポーツ少年団の自主的活動を支援していく。
【2次評価】	判定	今後の方向性等
行財政構造改革推進本部の総合判定	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	1次評価のとおり

## 付 表

## 補助金・交付金 交付先団体等の状況説明書

整理番号	47-6
------	------

## 【交付先団体等の概要】

補助金・交付金名	北広島市スポーツ少年団補助事業		
交付先の名称及び代表者名	北広島市スポーツ少年団 本部長 下田 勝 四 郎	設立年	昭和56年
構成員(団体)数	27団体 933名 (17年3月末現在)		
交付先団体等の活動目的	市内のスポーツ少年団を統括し、各団体の連絡調整を図るとともに、少年団のスポーツ活動の振興と普及を通して、健全な心身の育成に寄与する。		
交付先団体等の活動内容	1. 主催事業 駅伝大会32チーム224名 雪中トライアスロン10チーム73名 チャレンジスクール37名外 2. 加盟団体による競技会等		
事務局の状況(16年度)	補助団体にある	市役所にある	
補助金等の充当状況(16年度)	運営費のみに充当	事業費のみに充当	運営費・事業費の双方に充当

## 【交付先団体等の決算・予算の状況】

(単位:千円)

区 分		15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	
収 入	本市補助・交付金の額(A)	480	480	440	
	管内協議会外交付金	0			
	会費	92	93	90	
	諸収入	149	72	71	
	その他(研修負担金)				
	繰越金	105	85	75	
	<b>収 入 合 計(B)</b>	<b>826</b>	<b>730</b>	<b>676</b>	
支 出	加盟団体交付金	314	322	315	
	管内負担金	30	30	34	
	事務局費	23	31	30	
	事業費	351	272	277	
	その他(予備費)	23		20	
		741	655	676	
繰越金	<b>収入(B) - 支出(C)</b>	85	75	0	
全体支出に対する本市補助・交付金の割合(A)÷(C)		65 %	73 %	65 %	
補助・交付金の対象経費(項目)		予備費を除く	予備費を除く	予備費を除く	
補助・交付金の対象経費(金額)(D)		741	655	656	
対象経費に対する補助・交付金の割合(A)÷(D)		65 %	73 %	67 %	
補助・交付金の算出根拠	定額補助				